

[第875回ゼミ報告] 2024年3月8日号

大手企業では満額回答・一発回答、10%の回答も、政府も賃上げを言う。が、実質賃金は22カ月マイナス、中小零細企業の賃金は上がるのか
2月28日のゼミは、レーニン『帝国主義論』の「4.資本の輸出」と「5.資本家団体のあいだでの世界の分割」を竹内さんの報告で行いました。これまでの資本主義の自由競争・商品輸出から、独占体による資本輸出へ。独占体同士の同盟で独占を成立、さらに過剰資本発生から後進国へ、20世紀初頭から資本輸出が飛躍的に発展し、世界を分割していった。これに関しヒルファディングは金融資本・信用組織の動きで資本輸出と保護関税を論じ、ホブソンは帝国主義がイギリスをはじめフランス・ドイツ・合衆国も同じ道を進んだと説く。次に balan・スウィージーの独占体と新たな海外投資を論じ、さらに北原勇は「資本輸出」ではなく「対外膨張」を論じ、独占体同士の闘争とその形態変化と歴史的意味、資本主義の最新の段階での経済勢力圏から政治同盟・国家間関係まで論じる。さらに現資研(2/15)：松尾匡『コロナショックドクトリンと帝国主義への道』を取り上げ、最新の研究に触れた。討論では、日本でも国内で投資する場がなく海外進出・投資する。否、資本は、国内にも海外にも投資の手を伸ばしている。バブル崩壊前は、銀行に頼り、その力が強かったが、バブル崩壊後は産業資本のほうが強くなった。現在は企業が金融利益を出している。かつては銀行による中小企業主への個人保証や根抵当などの問題があったが・・・20世紀初頭は独占体形成でカルテル・トラストが広がったが、反トラスト・独禁法の時代になり、闇カルテルによる資本競争排除へ向かった。第2次大戦まではレーニンのいう「列強の争い」であったが、その後はアメリカの力が強くなっていった。しかし、中国の台頭でバックスアメリカが崩れ、さらにヨーロッパ諸国の力も強くなった。ただ、中国は国内の矛盾・格差・貧困が広がり、これはアメリカも同じだ。中国の政治は保守化を強めているのでは、との意見も出た。会場参加は小野さん、川口さん、山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さん・中村さんの8名でした。

* 3月13日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 820 6563 3086 パスコード: 185041

* 次回3月13日ゼミで、柄谷本を終わります。次のテキスト、推薦・提案をお願いします。できれば、候補本をお持ち下さい。

***** ゼミ日程 *****

3月13日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第4部2章、3章 報告後藤さん

3月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
レーニン『帝国主義論』6.列強・・・7.特殊な段階・・・報告小野さん

4月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
テキスト未定 (次回で決定) 報告者未定

その後 4/24, 5/8, 5/22, 6/12, 6/26, 7/10, 7/24 [アイクルの部屋]